

第24回国際人口学会大会

国際人口学会 (International Union for the Scientific Study of Population) は、4年毎に大会 (General Population Conference) を開催する。その第24回大会が2001年8月19～24日にブラジルのバイア州サルヴァドールで開催された。最終的な参加者は1,300人を超えたとのことだが、事前に登録を済ませていた参加者のリスト (843人) を見ると、居住国で最も多いのは米国 (184人) で、開催国ブラジル (140人) を上回る参加登録があった。地理的な条件からか、南北アメリカからの参加登録者 (417人) で半数近くを占める。次いでヨーロッパからの参加登録が目立ち (223人)、国別ではフランス (66人)、イギリス (39人)、イタリア (23人) から多く参加している。やはり地理的な条件のためか、アジアからの参加登録は101人で、前回の北京大会の682人 (うち中国から555人) から大きく減少した。日本からの参加者も、前回24人に対し今回は6人である。アフリカからの参加登録は77人、オセアニアから24人だった。

この大会では、88の専門部会が行われた。これは前回の北京大会の66部会を大きく上回り、野心的なプログラム編成だったと言える。多すぎるのでここにタイトルを示すことは避けるが、プログラムはブラジル大会のサイト (<http://www.iussp.org/Brazil2001/>) に掲載されている。やはり目立つのは出生・家族計画や死亡・健康に関する部会である。もちろん分布・移動、結婚・家族、経済、環境、歴史等に関する部会もそれぞれ複数個あり、人口学教育や人口学のソフトウェアに関する部会も開かれるなど、内容は多彩であった。

小会場で複数の部会が同時進行する専門部会に加え、夕方には大会場で論争セッション (または科学政策セッション) が開かれた。それらのタイトルは以下の通りである。

- D1. Did Cairo miss the mark?
- D2. Are there limits to the human life span?
- SP1. Science Policy session: Population and sustainable development
- D3. Is below replacement fertility here to stay?
- D4. Should borders be open?

論争セッションではまず、タイトルにある問題提起に対し賛成派・反対派2名ずつのパネリストが講演を行い、次いで意見のある参加者が賛成・反対のマイクの前に並んで交互に主張を述べ合うという形式だった。上記のように人口学研究者の間で関心が高い論点について適切な問題提起がなされており、賛成派・反対派が拮抗した活発な議論が行われた。

会員総会では学会本部がリエージュ (ベルギー) からパリ (フランス) に移ったことが報告されたが、次回大会は4年後にそのフランスで開催される。 (鈴木 透記)

国際統計協会第53回大会

最古の国際学会の一つと言われる国際統計協会 (International Statistical Institute, ISI) 第53回大会が2001年8月22～29日に韓国ソウル特別市の会議・展示センター (COEX) で開催された。プログラム